

指標36 糖尿病患者の血糖コントロール

代表者：張磨 則之 クオリティマネージャー：萩原 妃里子
共立糖尿病診療カイゼンチーム12名

糖尿病患者の 血糖コントロール

指標の意義

HbA1cは、糖尿病診療の質をはかる上で中心的な評価指標となっています。当院では2019年度に糖尿病診療の質改善を目指したQC(Quality Control)サークルである共立糖尿病診療カイゼンチームを発足させました。本チームを中心として、各種データの集計や問題点の抽出などから、PDCAサイクルを回し、診療の質改善活動を行うことで、HbA1cを中心とした血糖コントロール指標が改善してきているかを評価しています。

Plan(計画)

- 【入院診療】
教育入院での自己療養支援介入を強化
- 【デバイス】
間歇的持続血糖測定器の導入やインスリンポンプの導入
- 【外来】
コントロール不良患者への介入強化
- 【妊娠糖尿病】
GDM妊婦の血糖コントロール介入強化

Do(実行)

- 【教育入院パス】
標準化された多職種が連携して自己療養支援を行う教育入院パスの運営。
- 【新規デバイス・薬剤導入】
- 【GDM入院パス】
妊娠糖尿病患者さん対象の産婦人科病棟に入院しての専用教育入院パスの運営。
- 【リスタート外来】2021年～
A1c10%以上のコントロール不良者のみを対象に傾聴を中心として行動変容を促す専門外来の運営。

Action(改善)

- 【教育入院パス改善】2022年～
介入強度や入院曜日が異なる複数パターンの教育入院パスに改変
- 【デバイス】2022年～
インスリンポンプMiniMed770Gの新規導入
- 【糖尿病療養指導士会発足】2022年～
日本糖尿病療養指導士が増えたため、指導士の会を発足し、その活動によって院内の糖尿病診療の質の向上をはかる。

Check(評価)

- 【血糖コントロール】
外来通院患者のコントロール状況評価
- 【コントロール不良者】
HbA1c10%以上の特に重点介入対象となる血糖コントロール不良者数の評価
- 【心理的状況】
DM患者の心理負担、自己効力感等の定量化モデルを用いた評価



活動内容

調査

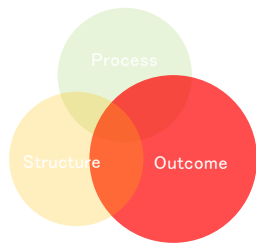
- 年1回の調査を継続する

援助

- DMカイゼンチーム内の部門ごとの改善計画立案を順次援助する

還元

- DMカイゼンチーム内の各部門にデータを還元する
- 患者さん、友の会の会員さん、地域みなさんにデータを還元する
- 病院ホームページへの掲載、友の会新聞への折り込みチラシの作成、職員向けニュースの作成する



指標36 糖尿病患者の血糖コントロール

代表者：張磨 則之 クオリティマネージャー：萩原 妃里子
共立糖尿病診療カイゼンチーム12名

糖尿病患者の 血糖コントロール

定義

① HbA1c8.0%未満割合

HbA1cが8.0%未満患者数

経口血糖降下薬またはインスリン・GLP-1注射が投与された患者数

② 65歳未満かつ HbA1c7.0%未満割合

65歳未満かつHbA1cが8.0%未満患者数

65歳未満かつ経口血糖降下薬またはインスリン・GLP-1注射が投与された患者数

結果

① HbA1c8.0%未満割合

2019年 2020年 2021年 2022年

75.2% **79.0%** **79.2%** **81.3%**

全日本民医連加盟病院中央値79.9%

② 65歳未満かつ HbA1c7.0%未満割合

2021年 2022年

40.8% **38.6%**

全日本民医連加盟病院中央値
36.5%

参考 経口血糖降下薬またはインスリン・GLP-1注射
使用患者の平均HbA1c

2019年 2020年 2021年 2022年
7.31% **7.28%** **7.25%** **7.29%**

●QM委員会・共立糖尿病診療カイゼンチームより

代表的なDM関連QIである指標①からは当院で診療の質改善サークルが組織されて以降で当院の血糖コントロール指標が徐々に改善されてきていることが伺えます。指標②に関しては、厳格に管理すべき若年～壮年の患者さんで一般的な管理目標である7.0%未満を達成できている患者が少なくかつ経時的な改善が乏しいことが判明しています。当院が糖尿病学会認定専門施設であり、コントロールが思わしくない患者さんがご紹介を通じて、より集積していることも要因として考えられます。今後も経時的な調査を行い、改善活動につなげていきたいと思えます。